

新しい体験的地域学 つくばね学

目 標

地域との連携を重視した様々な形態の学習活動を通して、他者との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「かかわり」「つながり」を尊重する態度を養う。
また、社会に積極的に寄与する能力を育成するとともに、持続可能な社会が実現できるような価値観と態度を養う。

具体的なねらい

1. 体験的な学習活動を通して、学ぶことの楽しさの意義を理解する。
2. 地域の体験施設や人材を活用することにより、郷土や文化に対する理解を深める。
3. 校外の幅広い年齢層の方々との交流、異学年との交流活動、発表会や報告会を行うことにより、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を育成する。
4. 人間関係を築く力、社会に参画し寄与する態度、規範意識や公共心の育成を図る。
5. 自己の生き方・在り方を考え、職業観・勤労観を育むことで、自尊感情のある自立した個人の確立を目指す。

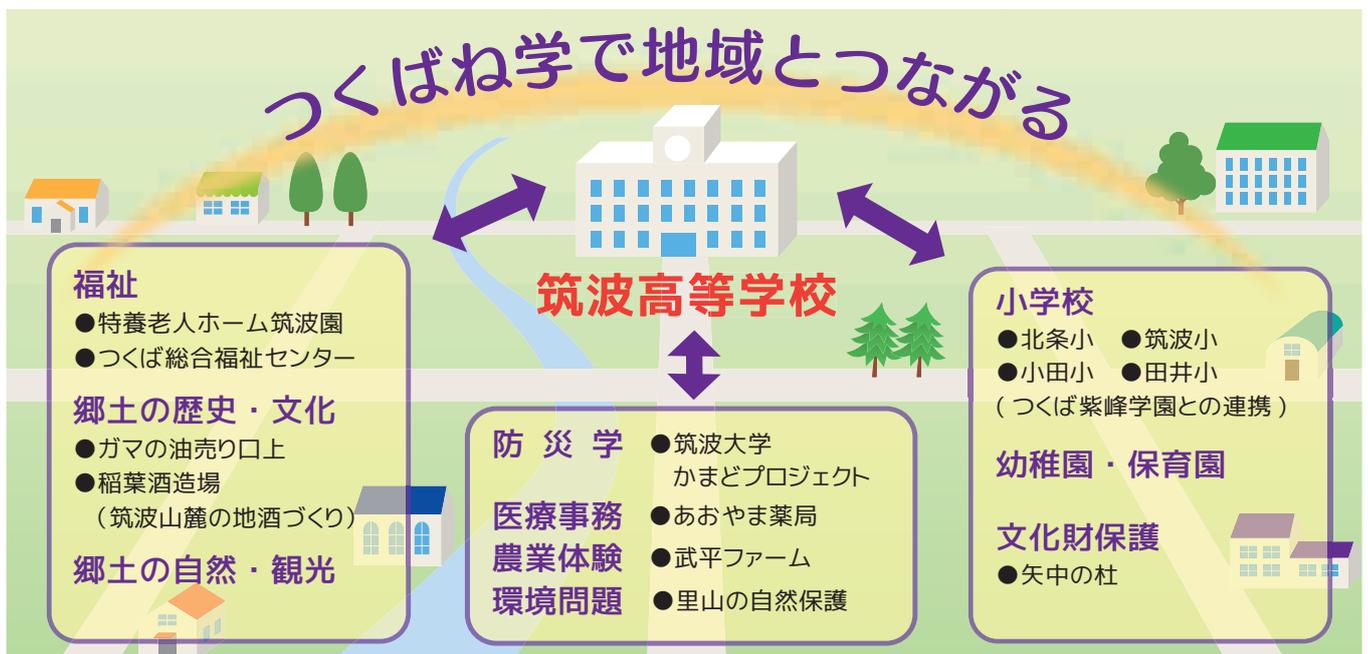
具体的な活動

【つくばね学】（2年次：総合的な学習の時間2単位で全員受講）

2年次の4～6月に「つくば市のまちづくり」「つくば市の文化」「つくば市の歴史」「社会人としてのマナー」等の講義を受け、郷土つくば市についての理解を深める。7月に実習先を決定して9月から各施設で実習を行う。

【つくばね学探究】（3年次：B類型の生徒のみ学校設定科目として2単位受講）

3年次の4～7月まで2年次と同じ施設で実習を行う。8月に2年次生に活動の引き継ぎをして実習を終了する。9月以降は「つくばね学」実習の成果をまとめ、12月に地域に向けてプレゼンテーション発表を行う。



平成28年度開設 つくばね学

～地域の教育力を活用し、人間力の向上を目指す学校設定教科です～

筑波高校2～3学年で取り組む「つくばね学」では、毎週金曜日の午後の授業において、筑波山麓にある学校周辺の各施設で1年間にわたる実習を行い、社会性やコミュニケーション能力をはじめとする「人間力」の向上を目指します。地域に対する理解を深め、郷土を愛する心を育むとともに、新しい地域密着型の体験的な学習を通して、「地域に支えられ地域を支える高校生」を育成します。

茨城県「一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業」の重点校に指定されています

主な実習先：“どきどき わくわく” 「つくばね学」



【近隣の小学校での学習支援】

小学校で学びの楽しさと大切さを再認識



【稲葉酒造場での地酒づくり】

筑波山の湧き水を使った伝統的な日本酒づくり



【筑波大学のかまどプロジェクト】

レンガを使って災害時の炊き出しかまどに



【特養老人ホーム筑波園】

介護の現場で高齢者福祉について考える



【ガマの油売り口上】

筑波山の伝統的な芸能文化を高校生が継承



【矢中の杜での文化財保護】

地域の大切な憩いの場の管理をサポート